

キク(小ギク)
Dendranthema grandiflora Kitamura
 (キク科)

挿し芽で繁殖される宿根草である。近年、イソギク(*D. pacificum*)やシオギク(*D. shiwogiku*)などとも交配され、草姿も多様になっている。もっぱら仏花として利用される。水あげ、日持ちともに優れるが、水に生けると茎が腐ったり、下葉が枯れ上がったりする。八重咲き、一重咲き、ポンポン咲きなどがあるほか、花卉の形も様々である。花色は白、黄、赤が生産の主体である。蕾段階で一斉収穫しても、糖溶液を用いることで開花させることができる。また、乾式冷蔵で数週間の貯蔵が可能である。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
花序の開花・老化	開花の見込める花序のうち A: 先端の花序が開花する B: 約半数が開花する C: 全花が開花し、一部で老化が始まる D: 1/3の開花花序が老化する	花序の老化の判定は、舌状花の褐変・萎れ、筒状花の変色・褐変によって判定する。
舌状花の褐変	個々の花序について A: 発生なし C: 花卉先端が褐変する D: 花卉面積の1/3が褐変する	灰色カビ病が発生しても褐変する。
舌状花の萎れ	個々の花序について、触ってみて A: 張りがある B: やや軟となる C: 軟らかくなる および視覚的に D: 萎れる(垂れる)	
筒状花の変色・褐変	個々の花序について A: 発生なし B: やや変色する C: 激しく変色する D: 褐変する	八重の品種では筒状花が露出(露心)しない場合があり、そのような場合には測定対象外とする。
葉の萎れ	触ってみて A: 張りがある B: やや軟となる 視覚的に C: 萎れるが、切り戻すと回復する D: 萎れて垂れ下がり、切り戻しても回復しない	萎れが激しく起こると花首も垂れる。
茎葉の黄変・褐変	A: 黄変・褐変の発生なし(緑色) B: 下位葉に黄変が発生する C: 中位より上の茎葉に黄変・褐変の発生が始まる D: 茎葉の1/2以上に黄変が発生し、下葉が枯れ上がる あるいは E: 下葉が激しく枯れ上がる	黄変の発生には品種間差が大きい。 花卉に灰色カビ病が発生すると、D: 花首が褐変することがある。
その他	病虫害、花卉のしみ、茎基部の腐り、下位節での開花の見込めない蕾の発達、D. 落弁など。	タネの発生に注意する。 後処理剤を用いた場合には茎の腐りは発生しない

2) 留意点

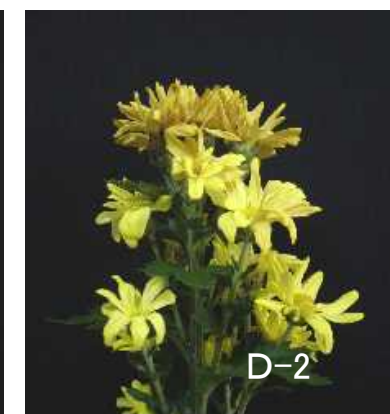
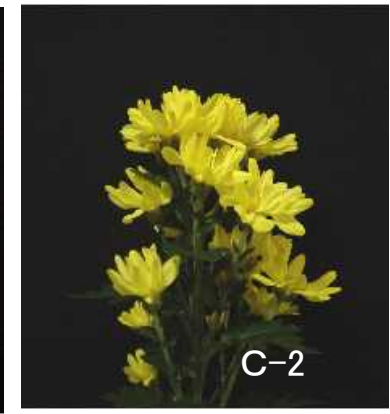
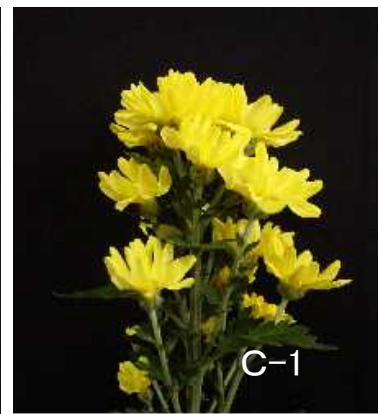
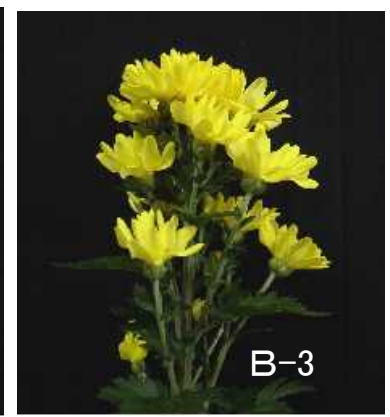
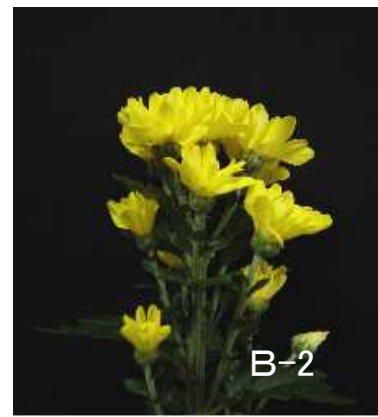
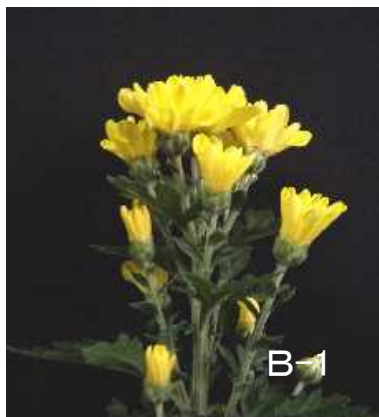
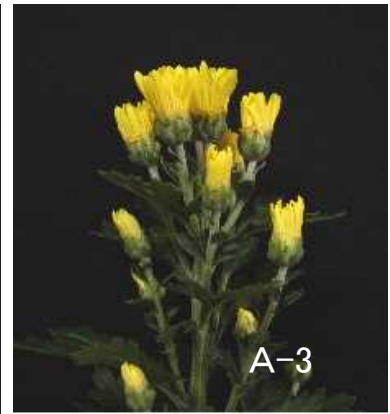
下葉は十分に取り除いて、いけ水につからないようにする。

激しく褐変した花序は取り除いてもよい。

乾式輸送後の強く萎れた切り花は、あらかじめ水で水あげを行った後、後処理剤の溶液に移して品質評価を開始する。

多湿下で灰色カビ病が発生しやすく、発生した小花は直ちに取り除く。

3) 開花



4) チェック事項



茎葉の萎れ

花蕾の発達

